

奥州湖周辺エリア活用整備構想



令和6年3月
奥州市

— 目次 —

はじめに～奥州湖周辺エリア活用整備構想の位置付け～	P.3
第1章 背景と目的	P.4
1. 奥州湖周辺エリア活用整備構想策定の背景と目的	P.4
1-1. アウトドアツーリズムによる地域活性化	
1-2. 奥州市のまちづくりとアウトドアアクティビティの関係	
1-3. 奥州湖周辺エリア活用整備構想の目的	
2. 総合アウトドア企業「モンベル」との包括連携協定	P.5
3. 奥州版 SDGs の推進	P.6
第2章 基本方針	P.8
1. 奥州市におけるアウトドアツーリズムの現状と課題	P.8
1-1. 地域資源の現状	
1-2. アウトドアアクティビティの現状	
1-3. アウトドアツーリズム構築の課題	
2. 基本方針	P.13
3. 基本エリアの設定	P.15
第3章 基本施策	P.17
1. 施策1／地域資源・アクティビティの磨き上げ	P.17
1-1. 登山&トレッキング	
1-2. サイクリング	
1-3. パドルスポーツ	
1-4. スノーシュー	
1-5. 複合的なルート	
1-6. その他のアクティビティ、フィールド	
2. 施策2／フィールド整備、拠点施設整備	P.44
2-1. フィールド整備	
2-2. 拠点施設の整備	
3. 施策3／受け入れ体制の整備、人材育成	P.69
3-1. 受け入れ体制の整備	
3-2. 人材育成（アウトドアガイド）	

4. 施策4 / 情報発信 (プロモーション)	P.76
4-1. 奥州市における情報発信	
4-2. アウトドア企業との連携による情報発信	
4-3. ジャパンエコトラックを活用した情報発信	
4-4. ふるさと納税を活用した情報発信	

第4章 推進体制	P.79
1. 推進体制の方向性	P.79
2. 奥州湖周辺エリア活用整備構想の推進体制 (案)	P.81

はじめに ～奥州湖周辺エリア活用整備構想の位置付け～

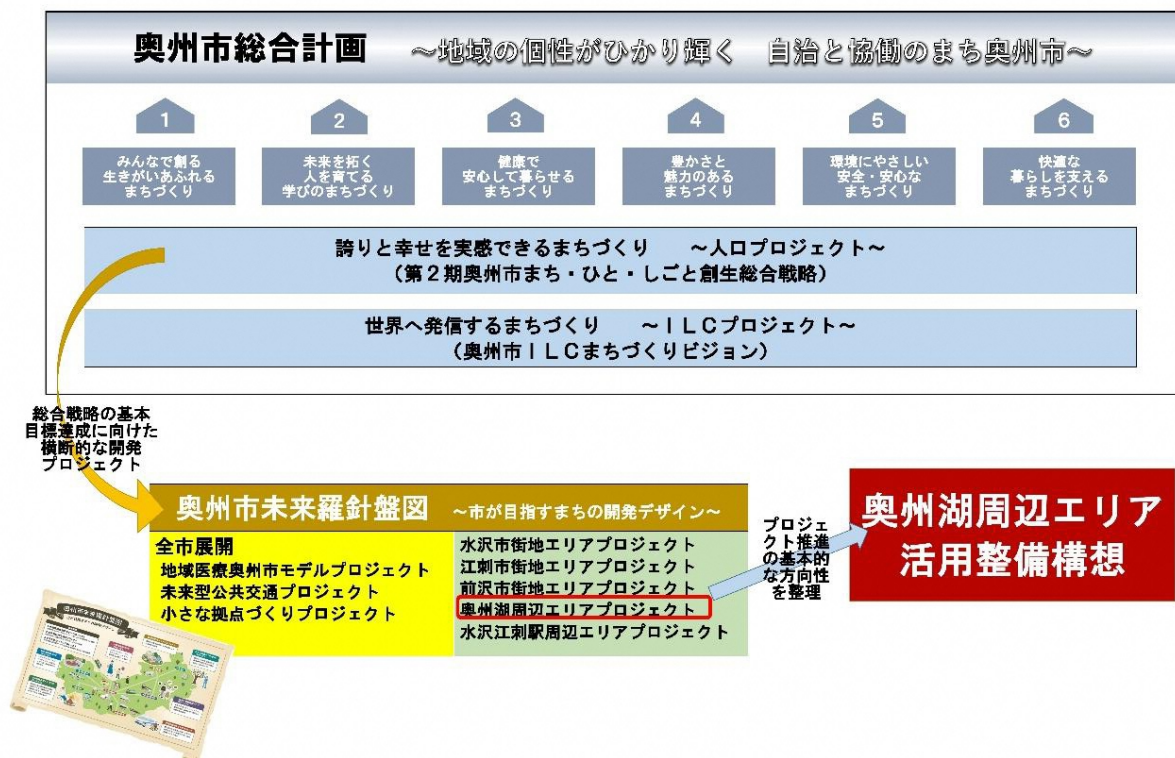
本構想は、奥州湖周辺エリアを中心としたアウトドアアクティビティを活用したまちづくりを進めるための基本的な方向性を示すものです。

本市では、構想策定にあたり、アウトドアアクティビティのノウハウに精通した株式会社モンベルと包括連携協定を締結しており、本構想には、株式会社モンベルからアウトドアアクティビティによるまちづくりを行っている全国の先進事例や優良事例の本市における横展開なども想定した提言・助言をいただいております、これらのエッセンスが取り入れられています。

構想中、施策の展開や拠点施設整備に関し、具体のルート設定や施設機能の整備等について言及している部分がありますが、これらは全国の先進事例や優良事例の本市における横展開のイメージとともに、あくまでより判りやすい記述とするための例示あるいは候補として示しているものです。

本構想に掲げる施策に基づく個別・具体の事業等については、今後、未来羅針盤図「奥州湖周辺エリアプロジェクト」において、実現に向けた課題整理と対応策の検討を行うとともに、広く官民連携の手法での具現化を念頭に、必要に応じて関係団体、事業者、市民等とも連携・協議を進め、投資効果等も勘案しながら、最終的には市総合計画に位置付けた上で取り組んでいくものです。

【奥州湖周辺エリア活用整備構想と奥州市総合計画等の位置づけ】



1. 奥州湖周辺エリア活用整備構想策定の背景と目的

1-1. アウトドアツーリズムによる地域活性化

昨今、豊かな自然を満喫する手段として、登山・トレッキング、サイクリング、カヌーなどのアウトドアアクティビティ（アウトドアスポーツ）の人气が定着してきており、性別や世代を問わず楽しむ人々が増加してきています。こうした中、アウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光「アウトドアツーリズム」を構築することで、地域資源を有効に活用した地域活性化が期待できます。

1-2. 奥州市のまちづくりとアウトドアアクティビティの関係

本市では、「奥州市総合計画 後期基本計画（2022年3月策定）」において、基本施策の一つとして「潤い豊かなスポーツライフの推進」を掲げており、スポーツを通じて、市民が生涯にわたり心身ともに健康でいきいきとした生活を営むことができるまちづくりを目指しています。また、基本施策の一つである「観光物産の振興」においては、「新たな体験型観光の推進」を施策の一つとして掲げ、奥州市の特色ある観光資源を活かした、自然体験、農業体験、歴史体験メニューを構築し、奥州市の観光の柱として位置付けていくことを目標としています。その具体的取り組み策の一つとして「自然体験メニューの充実」を掲げ、奥州湖周辺などの豊かな自然を活かしたカヌー、ラフティング、SUP、トレッキングなどの自然体験メニューを構築し、安心して遊べるアクティビティ空間をつくりあげることが主な取り組み内容としています。

「奥州市総合計画」の個別計画である「奥州市スポーツ推進基本計画 後期計画（2022年3月策定）」においても、スポーツの推進を図るための施策の一つとして「カヌー事業推進プロジェクト」を掲げており、その中で、奥州湖周辺及び市内の観光・宿泊施設などにおいて、受け入れ環境の整備を行うことで、観光客の誘客につなげ、多様な関わりを持つ関係人口・交流人口の拡大を図ることとしています。

また、胆沢ダム水源地域の将来像を定めた「胆沢ダム水源地域ビジョン（2012年9月策定）」における基本方針の一つとして、「胆沢ダムが育む水風土資源を活かした環境学習・観光レクリエーション振興を図る」ことを掲げており、観光レクリエーション資源や遺跡、水利遺構などの文化資源とリンクさせ、「胆沢まるごとダムパーク」として一体化し、着地型観光などの観光レクリエーションの振興や健康増進に最大限に活用していくこととしています。

1-3. 奥州湖周辺エリア活用整備構想の目的

本構想の対象地域である奥州湖周辺エリアは、胆沢ダム（奥州湖）を中心に、体験・学習施

設「奥州湖交流館」や宿泊・温浴施設「焼石クアパークひめかゆ」、カヌーやラフティングなどの体験活動の場となっている「胆沢川」や「馬留池」、花の百名山として登山客で賑わう「焼石岳」など、観光資源が集中しているエリアです。また、紅葉の名所としても人気があり、シーズン中は、「焼石連峰ビーチライン」や「栗駒焼石ほっとライン」に、ドライブやサイクリングで多くの観光客が訪れます。

胆沢ダム直下にある「奥州いさわカヌー競技場」は、全国有数の環境を有するフィールドとして国内外からの評価が高く、2022年11月には国内で3施設が上限とされている「JOC認定競技別強化センター」へ認定されました。この認定を契機に、現在、観光施設の位置付けとなっている「奥州湖交流館」にカヌー競技のトレーニング機能を備えた「トレーニングセンター（仮称）」の設置を検討しています。

また、奥州湖周辺エリアにおいては、河川空間のオープン化に向けた検討も進められており、胆沢ダム周辺の施設やフィールドについて、さらなる活用が期待されています。

2023年度は胆沢ダム完成から10年目の節目を迎える年でもあり、こうした背景を踏まえ、胆沢ダム周辺の新たなランドデザインの構築を図る必要があります。本構想においては、奥州湖周辺エリアを拠点に、本市の有する豊かな自然資源と独自の歴史・文化資源を活かし、カヌーやサイクリング、登山・トレッキングといったアウトドアアクティビティを快適に楽しめる環境を整備し、自然を愛する旅行者の来訪を促進し、アウトドアツーリズムによる地域経済の活性化を図ることを目指します。さらに、来訪者だけでなく、市民自らがアウトドアを楽しめる環境を整備することで、市民のアウトドア活動の促進による健康増進効果、市内へのアウトドア愛好家の移住・定住の促進など、さらなる地域活性化の効果が期待できます。

【奥州湖周辺エリア活用整備構想の目的】

- 豊かな自然や地域資源を活かしたアウトドアアクティビティの振興
- アウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光（アウトドアツーリズム）の推進
- 奥州湖周辺エリアを拠点としたアウトドアツーリズムの構築
- 市民のアウトドア活動の推進

2. 総合アウトドア企業「モンベル」との包括連携協定

本構想の推進にあたり、本市は総合アウトドア企業である株式会社モンベルと2023年4月に包括連携協定を締結しています。協定では、アウトドア活動等の促進を通じた地域経済の活性化と市民生活の質の向上に寄与することを目的とし、以下7つの事項について連携・協力するものとしています。これら7つの事項はアウトドア活動に期待できる効果であり、「奥州市総合計画 後期基本計画（2022年3月策定）」で掲げられている基本方針・基本施策と共通する部分もあるため、本構想の策定にあたっては、これら7つの項目も意識した上で検討を進めていくこととします。

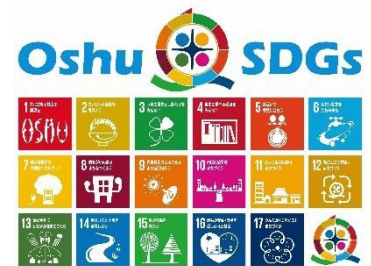
＜本市とモンベルの包括連携協定事項＞

- (1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関する事
- (2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関する事
- (3) 自然体験の促進による健康増進に関する事
- (4) 防災意識と災害対応力の向上に関する事
- (5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関する事
- (6) 農林水産業の活性化に関する事
- (7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関する事

3. 奥州版 SDGs の推進





SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) とは、先進国、開発途上国を問わず、世界全体の経済・社会・環境における持続可能な開発を統合的取り組みとして推進するものです。具体的な取り組みとして、「住み続けられるまちづくりを」、「気候変動に具体的な対策を」、「陸の豊かさを守ろう」など 17 の目標が掲げられています。

本市では、こどもからお年寄りまで、SDGs をより身近なものとして捉え、市民が一つとなって SDGs に資する取り組みを推進していけるよう、SDGs に市の特徴を取り入れた「奥州市版 SDGs」を作成しています。アウトドアツーリズムの推進により期待できる効果は SDGs の目標と関連する部分も多く、本構想の策定においては SDGs を意識した検討が重要です。



【奥州湖周辺エリア活用整備構想と関連する奥州市版 SDGs の目標と取り組み例】

3 心身の健康としあわせを みんなに 	<p>＜心身の健康としあわせをみんなに＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自然体験の促進による健康増進 ■高齢者、障がい者等の自然体験推進によるバリアフリー社会実現 など
8 働きがいのある まちをつくらう 	<p>＜働きがいのあるまちをつくらう＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人材育成（アウトドアガイド） など

<p>13 気候変動に しなやかなまちづくり</p> 	<p><気候変動にしなやかなまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ■公共交通の利便性を高め、自動車の利用を抑制 ■レンタサイクルの活用 など
<p>14 きれいな北上川を 維持しよう</p> 	<p><きれいな北上川を維持しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ■河川やダム湖での自然体験を通じて、水辺の生態系について考える など
<p>15 豊かな森を 守ろう</p> 	<p><豊かな森を守ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ■山地や森林での自然体験を通じて、自然や生き物の大切さを学ぶ など
<p>17 みんなが「つながる」 まちづくり</p> 	<p><みんなが「つながる」まちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ■行政、民間事業者が協力して課題解決に取り組む体制づくり など

1. 奥州市におけるアウトドアツーリズムの現状と課題

1-1. 地域資源の現状

本市は、西部に奥羽山脈・焼石連峰の優れた山岳景観と、東部に物見山を中心とした種山高原などのなだらかな稜線からなる北上高地の山々に挟まれており、中央部には胆沢川によって形成された胆沢扇状地を主とする胆沢平野の広大な田園地帯が広がる、自然豊かな地域です。また、ひらいずみ遺産である史跡「白鳥館遺跡」、「長者ヶ原廃寺跡」や、日本最大級の茅葺屋根建築として有名な「正法寺」、「歴史公園えさし藤原の郷」など、多くの歴史・文化資源が広大な市域に点在しています。

地理的には、岩手県の内陸南部に位置し、北は北上市・西和賀町・金ヶ崎町・花巻市、南は一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西は秋田県に接しています。総面積は993.3 km²と広大で、東西に約57km、南北に約37kmの広がりがあります。東北新幹線（水沢江刺駅）、JR東北本線（前沢駅、陸中折居駅、水沢駅）、東北自動車道（平泉前沢IC、奥州スマートIC、水沢IC）、釜石自動車道（江刺田瀬IC）、国道4号などの交通の利便性が比較的高く、いわて花巻空港からのアクセスも良好であり、こうした利便性を活かしたアウトドアツーリズムの構築が期待できるエリアであると言えます。

【本市の主な自然資源等】

- 山 岳・・・焼石岳、東焼石岳、経塚山、物見山（種山高原）、東稻山 など
- 河 川・・・胆沢川、北上川 など
- 湖 沼・・・奥州湖、馬留池、焼石沼、中沼 など
- 温 泉・・・ひめかゆ、前沢温泉 など
- その他・・・阿原山高原、大師山森林公園、見分森公園 など

【本市の主な歴史・文化資源】

- 史 跡・・・胆沢城跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡、大清水上遺跡、角塚古墳 など
- 寺 社・・・正法寺、黒石寺、駒形神社 など
- 博物館等・・・牛の博物館、武家住宅資料館、埋蔵文化財調査センター など
- 祭 礼・・・日高火防祭、江刺甚句まつり など
- 郷土芸能・・・鬼剣舞、鹿踊、神楽 など
- その他・・・歴史公園えさし藤原の郷、穴山用水堰、葦名堰（二の台堰）、寿安堰、徳水園（円筒分水工）、仙北街道 など



＜本市の主な地域資源の分布＞

1-2. アウトドアアクティビティの現状

本市において体験可能な主なアクティビティを以下に整理します。

アクティビティ	主なフィールド	イメージ
登山・トレッキング	焼石岳、種山高原、束稲山 など	
サイクリング	市内全域 (栗駒焼石ほっとライン など)	
パドルスポーツ (カヌー、SUP、ラフティング など)	奥州湖、馬留池、胆沢川 など	
スキー	国見平スキー場	
沢登り (シャワークライミング)	尿前川、胆沢川 など	
自然観察、天体観測 など	市内各地	

1-3. アウトドアツーリズム構築の課題

前述の通り、本市は豊富な地域資源や体験可能な様々なアクティビティを有していますが、その魅力を十分に活かすことができているとは言い難い状況です。その理由として、以下の課題があります。

課題1 市内周遊、滞在時間延長のための対策

本市は、国道4号、東北自動車道、JR東北本線、JR東北新幹線が縦貫する交通の要衝です。また、東北6県の県庁所在地へはいずれも車で3時間以内に到着可能となっており、「東北のど真ん中」に位置するまちと言えます。一方、市内の公共交通機関である路線バスの路線やダイヤは市民の生活路線として編成されており、観光客用としては利便性が低い状況にあります。こうした状況もあり、現状は自家用車やレンタカーによるドライブ観光が主となっており、市内での滞在時間・観光消費金額ともに少ないのが現状だと考えられます。「奥州市総合計画 後期基本計画（2022年3月策定）」においても、本市における観光が周遊型ではなく通過型であることが課題としてあげられています。観光消費金額は一般的に滞在時間に比例するため、滞在時間を延長、さらには宿泊を促すことで地域経済の活性化が期待できます。そのため、アウトドアアクティビティを始めとした体験プログラムの充実や、ストーリーに沿った周遊ルートの開発など、滞在型観光を促すための環境整備が必要です。

課題2 受け入れ体制の整備

アウトドアツーリズムを推進する上で、来訪者が安心して快適に自然を満喫するためには、推奨ルートの設定をはじめ、フィールドの整備や二次交通の充実、レンタルサービスの整備など、受け入れ体制を整備することが重要です。自転車のレンタルは、市内の観光関係団体の独自事業として、Zプラザアテルイや奥州市まちなか交流館、奥州市伝統産業会館で実施していますが、車種はシティサイクルのみで中心市街地での利用が主となっており、市内全域や周辺市町を広く周遊できるようなスポーツ性の高い車種が揃っていません。

アウトドアツーリズムを地域に根付かせるためには、アウトドアアクティビティのガイドができる民間事業者の存在が不可欠であり、そうした事業者がその地域で事業を継続していけることが理想です。ガイドは単にアウトドアツアーを案内するだけでなく、「地域の魅力を整理、発信する」という役割を担うことになり、それにより、ガイドツアー申し込み者以外の来訪検討者に対しても、地域の魅力を訴求することができます。本市では、奥州湖周辺エリアにおいて、カヌーやSUP、ラフティング等のアクティビティ体験ツアーを実施している事業者がありますが、本市が持つ豊富な地域資源を十分に活用するには、まだまだガイドサービスが不足している状況と言えます。今後、アウトドアツーリズムを推進していく上で、人材育成は大きな課題となります。

さらに、市民がアウトドアアクティビティに対する理解と関心を高めることは、受け入れ体制を整備していく上で非常に重要となります。市民が自らアウトドアアクティビティを楽しみ、自分たちが住む地域の魅力を再認識することで、地域全体でアウトドアツーリズムを盛り上げていく機運が高まり、環境保全意識の醸成やアウトドアガイドの担い手の育成につ

ながら効果が期待できます。加えて、市民がアウトドアアクティビティを定期的に行うようになることは、心身の健康増進にも寄与することが期待できます。

課題3 アウトドアアクティビティに関する情報発信

本市では、市内の観光関係団体により、パンフレットやWEBサイト等で観光情報を発信しています。しかしながら、登山やサイクリング、カヌー等、本市で体験できるアウトドアアクティビティやフィールドに関する情報に関しては、その魅力を十分に発信できているとは言い難い状況です。前述のルート設定やフィールド整備、受け入れ体制の整備と並行して効果的なプロモーションを展開していくことが重要です。

課題4 訪日外国人旅行者（インバウンド）への対応

日本の豊かな自然やアウトドアアクティビティを目的に訪れる外国人旅行者は多く、アウトドアツーリズムを構築する上で、インバウンドへの取り組み（インバウンド着地型観光）は意識していく必要があります。

近年の「いわての観光統計（岩手県）」によると、本市における外国人観光客の入込数は平泉町や一関市に比べると極めて低く、「奥州市総合計画 後期基本計画（2022年3月策定）」においては、外国人観光客にとって魅力的な観光メニューの提供と、効果的なPR戦略、外国人観光客のニーズに即した環境整備など、市全体での受け入れ体制充実を図っていく必要があるとしています。

アウトドアツーリズムを推進していく上でも、市内外の関係機関が連携を図り、外国人観光客に対応した受け入れ環境や体制の整備を進めていくことが重要です。

課題5 広域連携によるアウトドアツーリズムの取り組み

個人旅行の増加や体験型観光の普及など旅のニーズが多様化する中、自治体の枠組みを超えた広域連携を推進する必要があります。

本市は、近隣の3市町（北上市・金ケ崎町・西和賀町）と定住自立圏構想を推進していますが、取り組みの一つとして広域観光振興事業を掲げており、広域での自転車周遊ルートの開発など、連携したソフト事業の実施を目指しています。また、世界文化遺産「平泉」の関連史跡を有する市町（平泉町・一関市）と世界遺産連携推進実行委員会、旧伊達藩にゆかりのある市町（仙台市・気仙沼市・南三陸町・大崎市・松島町・塩竈市・平泉町・一関市・最上町）と伊達な広域観光推進協議会を組織し、魅力ある観光圏域の形成に向けた広域連携の取り組みを進めています。

今後、アウトドアツーリズムによる誘客力向上を推進していく上でも、上記の連携を活かした取り組みや統一イメージでのプロモーションが重要となります。広域のアウトドアツーリズムを構築することで、より一層、訴求力・発信力の高まりが期待できます。さらに、インフォメーションやレンタルサービス、体験ツアーなどの機能を併せ持った、アウトドアツーリズムの拠点となるような施設を市内に設けることで、本市を拠点とした広域のアウトドアツーリズムの構築が可能となり、さらなる地域活性化が期待できます。

2. 基本方針

本構想の目的として、「豊かな自然や地域資源を活かしたアウトドアアクティビティの振興」、「アウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光（アウトドアツーリズム）の推進」、「奥州湖周辺エリアを拠点としたアウトドアツーリズムの構築」、「市民のアウトドア活動の推進」の4つをあげました。これらの目的達成においては、本市におけるアウトドアツーリズム構築の課題としてあげた「市内周遊、滞在時間延長のための対策」、「受け入れ体制の整備」、「アウトドアアクティビティに関する情報発信」、「訪日外国人旅行者（インバウンド）への対応」、「広域連携によるアウトドアツーリズムの取り組み」の5項目について、改善に向けた検討を進めていく必要があります。そこで、「地域資源・アクティビティの磨き上げ」、「フィールド整備、拠点施設整備」、「受け入れ体制の整備、人材育成」、「情報発信（プロモーション）」の4つを基本方針とし、本構想の検討を進めることとします。

【奥州湖周辺エリア活用整備構想の基本方針】

方針1 地域資源・アクティビティの磨き上げ

本市を訪れる観光客の滞在時間は短い傾向にあります。この状況を打開し、滞在時間を延ばす周遊の仕組みを構築するため、アウトドア体験プログラムの充実や、地域資源を融合したルート、ストーリーに沿った周遊ルートの開発など、地域資源・アクティビティを磨き上げ、地域の魅力を底上げすることが重要です。

方針2 フィールド整備、拠点施設整備

アクティビティを楽しむ来訪者の利便性を高めるために、標識整備やレンタルサービスの充実、二次交通の充実など、フィールドの整備を行う必要があります。整備においては、多言語による標識や案内など、インバウンドを意識した取り組みが重要です。また、既存の観光施設や飲食店、キャンプ場や宿泊施設などに協力を呼びかけ、地域全体で連携を強化する必要があります。それに加え、アウトドアツーリズムの拠点となり得る施設を整備することで、本市を拠点とした広域のアウトドアツーリズムの構築が可能となります。拠点施設は、地域外からの来訪者を呼ぶことはもちろん、地域住民が利用しやすい施設であることが重要です。地域住民が来訪者との交流を通じて、自分たちが住む地域の自然や歴史・文化などの魅力を再認識することで、地域住民が主体となった地域づくりへの波及効果も期待できます。また、地域住民がアウトドアツーリズムへの理解を深めることで、来訪者を受け入れるホスピタリティも向上し、それがさらなる交流人口の拡大へとつながります。

方針3 受け入れ体制の整備、人材育成

本市でアウトドアツーリズムを持続的に展開していくためには、来訪者の期待に適切に対応するホスピタリティを有し、かつ期待や想像を超えた発見や楽しさを提供することができる

人材・ガイドを育成することが重要です。また、ガイド間で情報共有・意見交換ができるようなネットワークや、アクティビティ情報をコーディネートする組織を構築することで、アクティビティ拠点として本市の魅力を広く訴求することが可能となります。

今後はインバウンドへの対応も必要であり、ガイドや観光関連事業者だけでなく、地域住民も含めた「おもてなし」の意識を醸成していく必要があります。

方針4 情報発信（プロモーション）

本市に観光目的で来訪する方たちだけでなく、アウトドアアクティビティへの関心が高い顧客層に向けて、情報を的確に届けて来訪意欲を喚起していく必要があります。また、インバウンドも意識した多言語での発信を図る必要があります。アウトドア愛好家への情報発信においては、本市と提携関係にあるモンベルのネットワークを活用することで、効果的なアプローチが可能となります。

さらに、アクティビティ情報・ガイドツアー情報を集約、一元化して発信する仕組みを構築することが重要となります。

■ 統一された基準での情報発信について

豊かな自然環境を活用するアウトドアツーリズムは、現在、日本各地のさまざまな地域で、その土地の資源を最大限に活用した形で整備が進められています。一方で、日本各地で構築されたアウトドアツーリズムの情報を、全国のアウトドア愛好家や自然に関心を持つ方々に対して、効果的に発信していくことは難しい現状があります。また、そのような情報が、地域ごとの基準や様式で発信されているため、来訪者は事前に各地域間の情報を客観的に比較することができず、統一された基準での情報発信が求められています。

そこで、本市の豊かな自然資源と歴史・文化資源、宿泊・飲食店などの観光施設を融合したアウトドアツーリズムを構築するにあたっては、これらの課題を包括的に解決することを可能とする「ジャパンエコトラック（※）」の事例を参考に検討します。

※ジャパンエコトラックに関しては別冊参考資料 P.6～参照。

3. 基本エリアの設定

アウトドアアクティビティを目的とする旅行者の訪問意欲を喚起し、魅力あるアクティビティを体験してもらい、その結果として再訪意向や推奨意向を向上させるためには、本市での体験が国内や海外の競合観光地と比較した際に、より魅力が高いものであることが不可欠です。それに加え、「奥州市らしさ」といえる特徴・強みを明確に打ち出していくことが重要です。本市の地域資源の分布、アウトドアフィールドや体験可能なアクティビティの状況を踏まえ、下記3つを基本エリアとして設定します。特に、幅広いアクティビティが体験可能な奥州湖周辺エリアをアクティビティ拠点と位置付け、今後は各エリアの特徴を活かした取り組みを進めるとともに、エリア間の回遊性向上のための諸施策を進めていく必要があります。



〈本市のアウトドアツーリズム基本エリア〉

○ 奥州湖周辺エリア (アクティビティ拠点エリア)

「奥州湖周辺エリア」は、本市西部に位置するアウトドアフィールドで、多くの観光客が訪れる胆沢ダムや奥州湖を中心としたエリアです。JOC 競技別強化センターに認定されている奥州いさわカヌー競技場をはじめ、奥州湖交流館を拠点に、胆沢川でのラフティングや奥州湖・馬留池でのカヌー・SUP 体験が楽しめるなど、パドルスポーツの拠点となっています。また、焼石岳登山の拠点にもなっているほか、胆沢川源流域での沢登り、栗駒焼石ほっとラインでのサイクリングなど、幅広くアクティビティを楽しむことができます。エリア内には、温泉宿泊施設の焼石クアパークひめかゆ、フォレストコテージ奥州、つぶ沼キャンプ場などの施設があり、これらの施設を拠点に周辺フィールドや他エリアをめぐるルートを設定することが可能です。

○ 市街地周辺エリア（歴史・文化体感エリア）

「市街地周辺エリア」は、新幹線水沢江刺駅や JR 各駅、東北自動車道の 3 つのインターチェンジ (IC) や国道 4 号が含まれる本市観光の玄関口となるエリアです。宿泊施設も集中しており、本エリアを拠点に市内各エリアでのアウトドアアクティビティを楽しむことが可能です。また、本エリアは市街地のイメージがある一方、胆沢城跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡などの歴史・文化資源が点在しており、こうした地域資源をめぐるサイクリングを楽しむことができます。

○ 種山高原周辺エリア（森林・里山体感エリア）

「種山高原周辺エリア」は、本市東部に位置するアウトドアフィールドで、北上高地のなだらかな山並みとその麓には田園地帯が広がる、緑あふれるエリアです。田園地帯から高原地帯にかけて景色の変化が楽しめるサイクリングのほか、種山高原ではトレッキングを楽しむことができます。